

7. 喜々津の湖成層と含球安山岩

地 域	西彼杵郡多良見町
交 通	県営バス 喜々津下車
地形図	長崎 (1/50,000), 長崎東北部 (1/25,000)

喜々津で下車, 阿蘇より井樋ノ尾岳に向うルート入口の地点①に, 厚さ10~20cm位の炭質けつ岩3枚をはさんでいる細粒砂岩・けつ岩の互層をみる。砂岩は灰色で走向N54°E, 傾斜24°SEであり, 矢上地区の毛屋層最上部に対比される喜々津含炭層である。

①から約30m離れた地点②では, ①の下位にくる貝津互層がみられ, 淡灰~灰青色の細粒砂岩とけつ岩・砂質けつ岩類の互層で下部になるにしたがい厚い板状砂岩にとむようになる。(N40°E, 20°W)

②から約400m南々東に向った地点③で毛屋層下部の中に断層がみられる。本地層は淡灰, 灰青色の中~細粒砂岩と黒灰色のけつ岩・砂質けつ岩類との互層であるが, 全体として砂岩が優勢である。

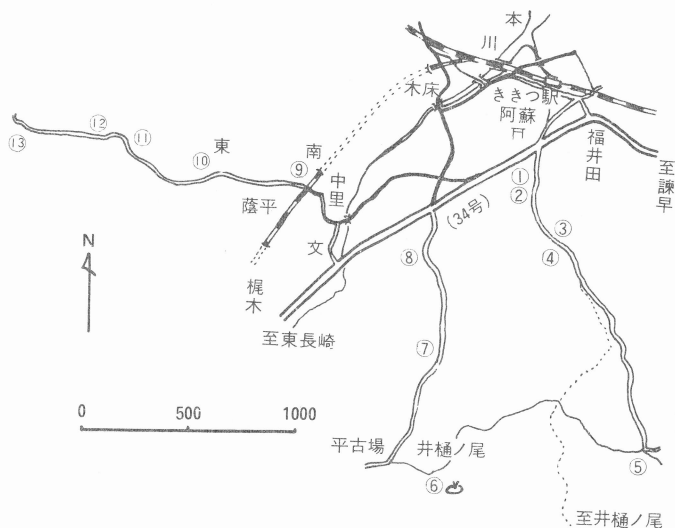
③と道路をへだてて西側の地点④の池の周辺で, 砂岩の走向傾斜を測るとN80°W, 20°Nであり③との断層関係を考えることができる。

④~⑤のルートは類似岩相で④と同じ走向傾斜を示す。⑤に向う急坂のルートでは山腹側に井樋ノ尾岳をつくる黒雲母角せん石安山岩のかなり風化した崖錐がいすいをみる。⑤~⑥のルートでは毛屋層下部の堆積岩と, 井樋ノ尾岳を構成する黒雲母角せん石安山岩の溶岩円頂丘との接触部がみられ, 著しい湧水の箇所をみることができる。

井樋ノ尾部落から沢を30m余り登った地点⑥では溶岩円頂丘の裂か水を約50t/日採水できるボーリング井戸が掘ってある。

付近の同じ岩体中の節理の走向・傾斜は大体N30°E, 40°Wである。

井樋ノ尾部落から下り坂の道を国道34号線に向けて北方にコース



喜々津付近ルートマップ

をとる。⑦地点では砂岩・泥岩の互層中に層内褶曲がみられる。層内褶曲の原因としては、「未固結または半固結の地層が重力に支配されて斜面をすべり下る時、またはスランプ運動をするとき、すべった地層だけに変化が生じ、その休止後にたまった新堆積物は変形を示さないために層内褶曲ができる」と説明されている。

⑦の地点から34号線にいたるまで⑧にみられる堆積岩は、砂岩とけつ岩・砂質けつ岩の互層よりなり、薄板状灰白色細粒砂岩とけつ岩類との互層（①でみた喜々津含炭層）に漸移している。炭質けつ岩をはさむ砂岩層で風化の著しい部分もみられる。(N40° E, 20° W)

⑨地点は角せん石安山岩質の凝灰角れき岩で、淡黄色ないし淡灰色を呈する。凝灰質部分は顕微鏡下では緑色の普通角せん石が、しそ輝石や普通輝石にくらべて多く含まれている。角せん石安山岩質の噴出物が火山活動の初期に多量に噴出して堆積したもので、いわゆる本質火山角れき岩である。

⑩で見られるち密な、層理のはっきりしたシルト岩は喜々津植物化石層と呼ばれる白色あるいは淡黄灰色をした地層である。本層は茂木植物化石層と対比されている凝灰質シルト岩であり、対比の理由として橘行一は次の点をあげている。

- (a) 両地域の植物化石層は、古第三系の上に不整合に重なっており、喜々津付近のものは茂木植物化石層よりかなり上位である。
- (b) 長崎火山の初期の噴出物である角せん石安山岩類および火山岩塊を両層ともともなっている。
- (c) 両植物化石層は上部になると複輝石安山岩類に移過していく。
- (d) 両植物化石層は共に淡水の化石湖中の堆積物である。
- (e) 両化石湖は共に長崎火山の周縁部に形成されたものである。

⑪ 喜々津植物化石層を整合におおう複輝石安山岩の溶岩が見られる。

⑫の地点から 100 m くらい西方に向った地点⑬に角せん石安山岩の露頭がみられる。

⑬の地点では含球安山岩が見られる。球の部分は径 1 ~ 2 cm のアメ玉かピンポン玉みみたいな形であるが、長崎市日見峠、こしき岩付近のものにくらべて小さい。

(藤田 光)